



平成 25 年度

事業報告書

一般社団法人 北海道軽種馬振興公社

平成25年度事業報告（平成25年4月1日から平成26年3月31日）

当社は、ホッカイドウ競馬を継続かつ安定的に運営し平成23年3月に北海道が策定した「北海道競馬推進プラン」を着実に推進するため、「北海道競馬の実施に関する業務」の委託を受け、馬産地の豊富な馬資源と屋内調教用坂路など競馬場施設の効率的利用を基本とし競馬事業の運営にあたった。

1. 公社運営に関する会議等

(1) 総会

ア 第37回通常総会

平成25年6月6日

- ・平成24年度事業報告
- ・貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）について
- ・役員を選任について

イ 平成25年度第1回臨時総会

平成26年3月20日

- ・事業運営の基本方針
- ・平成26年度事業計画について
- ・平成26年度収支予算について
- ・組織体制について

(2) 理事会

ア 平成25年第1回理事会

平成25年6月6日

- ・平成24年度事業報告
- ・貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）について
- ・役員を選任について

イ 平成25年度第2回理事会

平成25年6月6日

- ・理事長・副理事長・専務理事の選定について

ウ 平成25年度第3回理事会

平成25年9月5日

- ・平成25年度ホッカイドウ競馬開催状況について
- ・J-PLACEでの発売状況について
- ・ブリーダーズゴールドカップ競走の条件変更について

エ 平成25年度第4回理事会

平成25年11月26日

- ・平成25年度ホッカイドウ競馬開催結果について
- ・平成26年度ホッカイドウ競馬開催日程について
- ・平成26年度重賞競走の編成について

オ 平成25年度第5回理事会

平成26年3月20日

- ・事業運営の基本方針

- ・平成26年度事業計画案及び収支予算案
- ・組織体制について
- ・第1回臨時総会の開催について

(3) 監査

監事監査

平成25年5月24日

- ・平成24年度事業報告並びに収支決算に係る監査

2. 北海道競馬実施事業

(1) 競馬事業費について

公社が道から委託及び補助を受け業務を実施した。

(2) 開催日程について

平成25年度のホッカイドウ競馬は、全日程を門別競馬場グランシャリオナイターとして開催し、台風の影響により開催が1日中止となったほか、濃霧などの影響により10競走取り止めとなったが、南関東や他地区との相互発売、インターネット、電話投票などによる発売拡大に努め、発売額は140億1,743万円で、前年比：116.8%、計画比：109.9%という結果となった。

(15開催79日間 4月24日から11月14日)

また、非開催日においても、地方競馬（南関東・ばんえい競馬等）やJRAといった他主催者の場外発売により収益確保に努めた。

※ 10月16日は全12競走を台風の影響により開催中止、5月16日23日・6月19日・7月4日の4日間、計10競走濃霧等のため競走取止め

(3) 施設・設備の運用について

JRA発売に対応するため各主催者と共同で導入する多目的情報提供システム（JRA発売情報）の本格運用を開始するとともに、Aiba浦河・苫小牧の場外発売所を整備した。

(ア) 多目的情報提供システム 平成25年4月から本格運用

(イ) Aiba浦河 平成25年8月9日リニューアルオープン

(ウ) Aiba苫小牧 平成26年3月24日リニューアルオープン

(4) 報償費について

報償費については、2歳馬の出走頭数の確保と他地区への転入条件を緩和することから、秋の12開催以降における未勝利競走の賞金を増額するとともに、牝馬の重賞競走を新設した。

また、(一社)ジャパンブリーダーズカップ協会（以下「JBC協会」という。）などから1着報償金などの支援を頂き魅力ある競馬番組の提供に努めた。

(5) 発売拡大の取り組み

更なる発売拡大を図るため、道内においては、A i b a 浦河・苫小牧を移転し、集客対策に取り組んだ。

また、道外発売については、南関東との連携強化はもとより、馬柱等の情報提供の拡充を図りながら、東海地域をはじめ、他地域での発売拡大にも取り組むとともに、既存の電話投票、インターネット発売やJ R A即パット発売日数を増やすことにより発売拡大に努めた。

さらには、場外発売所においてJ R A発売を実施し、新たな手数料収入を見込むとともに、J R Aファンをホッカイドウ競馬のファンとして取り込むことに努めた。

ア 既存場外の整備

J R A発売に対応するため、A i b a 浦河・苫小牧を移転し、収益拡大に努めた。

- ・ A i b a 浦河移転に伴うリニューアルオープン（25年8月9日）
- ・ A i b a 苫小牧移転に伴うリニューアルオープン（26年3月24日）

イ 他主催者との連携強化による相互発売

南関東（大井・川崎）とホッカイドウ競馬の相互発売の拡大を図る目的から実施されている川崎競馬場における全レース発売や大井競馬場ナイターでの3レース発売を実施した。

また、東海地域（名古屋、笠松）での発売及び兵庫・岩手・石川での発売の拡大を図った。

ウ 電話・インターネット投票

情報提供の拡充などを積極的に展開し、好調に推移しているインターネット投票による発売拡大に努めるとともに、平成24年10月から開始したJ R A即パットの発売日数を60日間（24年実績11日間）に拡大し、発売額の拡大を図った。

エ 全国発売競走

全国牝馬重賞シリーズであるグランダム・ジャパン、ダービーWeek、スーパースプリント競走、未来優駿などのシリーズ競走に参画し、全国発売による発売拡大を図った。

オ J R A発売

平成25年3月より、ホッカイドウ競馬の場外発売所（A i b a 浦河は8月から発売）においてJ R A全レース105日間を発売（A i b a 札幌駅前とA i b a 札幌中央はメインレースのみ）し、収益を確保した。

(6) 競馬番組について

競馬番組は、競馬事業における根幹部分であり、ファンに魅力ある競走を提供していくことが重要である。

また、ホッカイドウ競馬は他の地方競馬とは異なり、2歳戦が競走の約4割を占め、その翌年には全国の競馬場へ多くの活躍馬を輩出することから、全国の競馬ファン等から注目されている。

このようなことから、2歳馬の競馬概定番組については従来の発表方法を改め、年間を通した概定番組を発表し、馬主及び調教師等の関係者が出走させやすい環境を整えるとともに、競馬ファンが注目する魅力ある競馬番組づくりに努めた。

ア JRA 認定競走

JRA協力金のもと、認定競走を109競走実施した。

- ・重賞競走 8競走（24年度 6競走）
- ・ウィナーズ 15競走（ 〃 17競走）
- ・フレッシュ 51競走（ 〃 53競走）
- ・アタック 35競走（ 〃 35競走）

イ 2歳重賞競走の新設

牝馬の馬名登録頭数が6割余を占めることや流通の促進を図るため、重賞競走を新設した。

- ・HBA賞 ブロッサムカップ（H3）・日高軽種馬農業協同組合賞
（施行日11月14日 距離1,200m 1着賞金250万円）

ウ JBC 協会協賛 スタリオンシリーズ競走

ホッカイドウ競馬の特色ある競走として定着し、全国から注目されているスタリオンシリーズ競走を、JBC協会のご支援のもと全48競走実施した。

重賞競走	19競走
2歳	5競走
3歳・3歳以上	13競走
スタリオンプレミアムシリーズ競走	11競走

エ 公益社団法人日本軽種馬協会による副賞贈呈事業

牝馬の所有意欲の継続と牝馬限定競走の維持拡大による軽種馬生産経営安定化に資する観点から、日本軽種馬協会の支援のもと実施する「牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業」について全52競走を実施した。

オ 平成25年度新馬流通推進対策事業の実施

良質な2歳馬の地方競馬への早期入厩促進を図ることを目的に、地方競馬全国協会が実施する事業を活用し、2歳限定競走（JRA認定競走を除く）において付加賞金を1着馬から5着馬までの馬主に贈呈した。

- ・付加賞金（進上金、番組賞金加算対象外）
1着50万円, 2着10万円, 3着7.5万円, 4着5万円, 5着2.5万円
- ・実施競走数 43競走

カ 地方競馬全国協会シリーズ競走への参加

・スーパースプリントシリーズ

短距離競走をシリーズ化して実施する「スーパースプリントシリーズ」へ参加。

- ・対象競走「グランシャリオ門別スプリント（ファスト賞）」賞金 200 万円

実施日 6月25日（火）距離 1,000 m

北海道・岩手ブロック競走として実施

・グランダム・ジャパン

牝馬重賞競走をシリーズ化して実施する「全国牝馬重賞シリーズグランダム・ジャパン」に参加。

- ・対象競走「ノースインカップ（キングスベスト賞）」1着賞金 300 万円

実施日 7月23日（火）距離 1,800 m

- ・対象競走「エーテルワイス賞」1着賞金 2,000 万円

実施日 10月10日（木）距離 1,200 m

・ダービーWeek

ジャパングラードダービーに向けた地方競馬の3歳重賞体系整備を目的とし、全国6カ所で実施されるダービーWeekシリーズに参加。

- ・対象競走「北海優駿 H1（ティーフスカイ賞）」1着賞金 500 万円

実施日 6月4日（火）距離 2,000 m

・未来優駿2013

兵庫ジュニアグランプリや全日本2歳優駿に向けた2歳重賞体系整備を目的に設定され、全国7カ所で実施される「未来優駿」に参加。

- ・対象競走「サッポロクラシックカップ」1着賞金 300 万円

実施日 10月29日（火）距離 1,200 m

キ 2013ダービージョッキーズスペシャル競走の実施

門別競馬場主場化5周年記念事業として全国で初めてとなる中央競馬と全国の地方競馬のダービーを制した騎手を招いた「2013ダービージョッキーズスペシャル競走」を実施。

- ・対象競走「サッポロビール杯2013ダービージョッキーズスペシャル」

1着賞金 100 万円

実施日 10月29日（火）距離 2,000 m 出走頭数 9頭

(7) ファンサービスについて

インターネット及びスポーツ新聞を利用した情報提供など、道内外ファンへの情報提供の充実や来場者に対するファンサービスの実施などにより、ホッカイド

ウ競馬のファン拡大と発売拡大に努めた。

ア イベント広場の活用

グループでの来場を促進するため、好評のジンギスカンハウスを拡充した他、ログハウスでのオリジナルグッズ、オリジナルスイーツの販売を実施した。

また、春・夏・秋のケイバまつりを実施するとともに、「ひだか特産市」など地元食材や観光 PR と合わせた実施により、日高管内及び門別競馬場の PR を行った。

イ 道内場外でのファンイベント

全道の場外発売所で A i b a 祭などのファンサービスを実施し、場外発売所の認知と集客拡大を図った。

ウ 放映及び放送内容の充実

4 コーナー設置カメラを最大限活用し、迫力ある映像展開とホッカイドウ競馬ならではの情報を盛り込んだ放送に努め、競馬への参加意欲の促進を図った。

エ オフィシャルホームページの改修

インターネットユーザーに対し、より多くの情報を提供するため、ホッカイドウ競馬オフィシャルホームページの改修を行い、更なるファン拡大策及び購買意欲の向上に努めた。

オ 道外新聞への馬柱掲載の充実

発売額が好調に推移しているインターネット及び電話投票の発売拡大策を図るため、札幌馬主協会様等からのご支援により、関東・東海・関西エリアのスポーツ新聞に馬柱掲載を行った。

(サンケイスポーツ、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知、東京スポーツ、中京スポーツ、大阪スポーツ 7紙2レース掲載)

また、週刊競馬ブックでの重賞馬柱掲載やブックオンライン(ホームページ)から重賞予想データ無料ダウンロードサービスを実施した。

カ SPAT4 との連携

南関東電話投票(SPAT4)との連携により、会員への「メール配信・ホッカイドウ競馬情報の郵送・動画配信等」を実施した。

キ 札幌からの無料送迎バス運行

開催日(80日間)に札幌駅北口から門別競馬場までの無料送迎バスを毎日運行し、札幌圏から門別競馬場への来場促進を図るとともに、来場者が多く見込まれる「競馬まつり」等には臨時便を運行するなど、効果的な集客策に努めた。

(8) 有名企業とのタイアップ

協賛イベントや協賛競走を実施し、ホッカイドウ競馬により親しめるよう、有名企業とのタイアップを積極的に推進した。

ア サッポロビールとポッカサッポロフード&ビバレッジとの連携

- ・オリジナル記念缶を作成し、全道のコンビニ等での販売を通じてホッカイドウ競馬のPRを行った。
- ・大通ビヤガーデン会場や札幌市内ホテルにおいて、競馬ライブ中継やゲームを交えたイベントを実施した。

イ 楽天競馬(競馬モール)と北農中央会・ホクレン・産地 JA との連携

楽天競馬と北農中央会・ホクレン・産地JAとのコラボレーションにより、楽天競馬で馬券を購入された方に日高管内特産品をプレゼントする「産直キャンペーン」を実施した。

ウ 北海道空港グループとの連携

新千歳空港国内線ターミナルビル2Fの大型映像システムと館内40箇所のデジタルメディア端末を使用し、開催情報の提供や競馬場及び場外発売所のアクセス案内を放映した。

(9) 門別競馬場を活用した馬産地の活性化（公益目的実施事業）

法人移行に合わせて公益目的実施事業として、軽種馬生産の振興と馬産地の活性化に資するための各種イベントを実施した。

(10) 門別競馬場団体来場者の誘致

旅行代理店が運営している日高バスツアー行程の一つとして、門別競馬場を提供し、団体客の来場促進を図り、門別競馬場の認知度向上とリピーターの取り込みに努めた。

また、地元日胆地区の企業などに向けて、門別競馬場団体観戦プランを企画し、新たな来場者の促進を図った。

附属明細書

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般社団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。